

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272501347		
法人名	社会福祉法人 誠友会		
事業所名	グループホーム いこいの森		
所在地	青森県上北郡おいらせ町緑ヶ丘一丁目50-2077		
自己評価作成日	令和元年10月8日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>住み慣れた地域で地域の一員として、残された力を活用しながら、生活の中での役割や楽しみを持っていただき、生活の質の向上に繋げています。 また、近隣の小・中学校、保育園、町内会等との交流を積極的に行っています。 訪問看護師が週1回健康管理を行う体制にあるほか、24時間の医療連携体制や終末期・重度化に対する指針を整え、それぞれの家族や利用者の希望に応じた最善のケアを提供できるように取り組んでいます。</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人のデイサービスセンターが隣接し、周辺は耳鼻科や歯科医院があり、ショッピングセンターの多い新興住宅地に立地している。地域密着型サービスを踏まえた理念を作成し、職員は理解して共有に努め、実践に繋げている。幼稚園や保育園児がデイサービス訪問の際に交流したり、小中学生のボランティアの受け入れや地域で認知症カフェを開催する等、地域と積極的に交流を図っている。 利用者は体操やちぎり絵等の手作業を日課に取り組んでいるほか、食事は家庭的な食事を提供して、職員はさりげなく声がけをしながら見守りを行っている。100歳の利用者も元気に過ごしており、職員同士も「お互い様精神」で臨んでおり、和やかな雰囲気を感じることもできるホームである。</p>
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20-30		
訪問調査日	令和1年11月20日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの役割を理解し、ホーム独自の理念を常に目の届く場所に掲示して共有し、利用者へのサービス提供に努めている。	地域密着型サービスを踏まえたホーム独自の理念を作成し、ケア理念と共にホールへ掲示している。職員は毎日唱和して共有し、ケアサービスの提供に反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、町内会に加入している。また、隣のデイサービス利用者との交流や地域の小中学生の体験学習、ボランティア等の受け入れも行っている。また、法人全体の広報誌を系列の観光農園に置き、地域住民への情報発信に努めている。	町内会に加入すると共に、小中学生の体験やボランティアを受け入れ、利用者と交流している。隣接するデイサービスとの繋がりにより、地域住民との交流ができてはいるほか、幼稚園・保育園児が訪問した際には出かけて交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に役場職員や地域包括支援センター職員、民生委員等の方々が参加し、地域の認知症の方々のいろいろな問題の相談等に関わっている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、利用者の状況やホームの取り組み等を報告すると共に、出席者に会議の意義や役割を理解してもらうように努めている。様々な意見を出していただき、サービスの質の確保や向上に繋げる努力をしている。	運営推進会議を2ヶ月に1回、地域包括支援センター職員や役場担当課職員・民生委員・家族代表の委員で開催している。会議ではホームの状況や行事・自己評価及び外部評価結果等を報告し、意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に毎回参加していただき、意見交換や情報交換を行っている。	町担当課職員は毎回運営推進会議に出席している。行政にはホームの運営面やサービス提供面の課題等について相談したり、情報を得る等、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で身体拘束についての勉強会を行い、全職員が理解している。また、身体拘束を決して行わないという意識を持ち、日々のケアを提供している。玄関は防犯のため、夜間のみ施錠している。	法人で身体拘束廃止委員会を設置しており、内部研修を行って全職員が理解し、身体拘束を行わないケアに努めている。玄関は施錠せず、2階エレベーターの入口はコールマットを設置して外出傾向を察知できるように工夫している。また、身体拘束を行わなければならない場合に備えて、記録を残す体制を整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で虐待についての勉強会を行い、全職員が理解している。また、虐待を決して行わないという意識を持ち、日々のケアを提供している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で勉強会を行い、理解を深めている。必要に応じて家族へ情報提供し、サービス利用に繋げる支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス利用の契約の際にホームの理念や方針について説明し、利用者や家族の同意を得ている。また、退去時には家族の希望に沿うように情報の提供や支援を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話、お便り等で暮らしぶりの報告を行い、意見や要望を確認している。また、玄関先に苦情・相談ボックスを設置して、苦情等が出された場合には検討して速やかな対応ができる体制を整えている。	面会時やお便り等で担当者から利用者の暮らしぶりを家族に報告している。また、外出や行事等の写真を掲載したお便りを発行し、家族に送付している。掲載する写真については、掲載許可を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から出された意見等は、速やかに代表者や事務長に伝え、ホームの運営に反映させるように努めている。	法人全体会議を毎月開催して、申し送り時に伝達事項の確認等を行い、全職員で共有できるように取り組んでいる。職員は意見や希望等を話せる環境にあり、必要物品の購入や勤務体制でも「お互い様精神」で臨んでおり、働きやすい職場環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を遵守した運営に努めているほか、勤務割作成時には職員個々の都合に配慮している。また、年1回(夜勤を行う職員は年2回)の健康診断を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームの年間の研修計画を作成している。内部研修は年6回、認知症ケアに関する内容を中心に実施している。外部研修については受講者を選出し、受講後は報告書を作成することとしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会に加入しており、交流や連携の機会を確保できるように努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談があった時にはホームの雰囲気を感じていただくため、できるだけ見学をしていただき、その際に困っている事や不安に思っている事等を聞き、問題解決に努め、安心していただけるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談があった時にはホームの雰囲気を感じていただくため、できるだけ見学をしていただき、その際に困っている事や不安に思っている事、要望等を伺い、相談に乗りながら、不安なく利用していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人、担当ケアマネージャー、利用していたサービス機関から情報を提供していただき、ニーズの見極めに努め、サービスの利用に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で利用者の力量を見極めており、掃除や茶碗拭き、お盆拭き、配膳、洗濯物量み等の役割を持っていただき、職員と一緒にいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状態を面会時に報告したり、変化や利用者の希望がある時等は、その都度連絡して家族に協力していただき、一緒に支え合っていけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族からの情報のほか、利用者の意向等を日々の生活の中から聞き取り、把握に努めている。また、行事の時は家族へ参加の声かけ等を行い、一緒に過ごしていただくように支援している。	家族からの情報や日々の関わりの中から、利用者の馴染みの人や場所等の把握に努めている。手紙や電話の希望があれば支援できるよう、1階に公衆電話を設置している。また、法人の秋祭りには家族にも声かけし、一緒に出かけて楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないように職員が中に入り、利用者同士で円滑な信頼関係を築けるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも、いつでも相談が可能であることを説明している。また、退去先の関係者に、環境や暮らしの継続性に配慮してもらうよう、利用者の情報等を提供している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報収集や利用者の日々の暮らしぶり等から、利用者の意向を汲み取り、把握するように努めている。	家族からの情報や日常の中から、利用者の生活歴や暮らし方等の把握に努め、その人らしく過ごせるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方の生活歴や暮らし方、環境等の情報を収集し、その人らしいサービス支援ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時の情報や家族からの聞き取り、入居後の日々の観察等により、利用者個々の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の希望等を聞き入れているほか、職員間で話し合いを行い、介護計画を作成している。	利用者や家族の意見・希望を聞き、担当者が作成した原案を基に、管理者・リーダー・職員の気づきも踏まえた介護計画を作成している。3ヶ月毎にケア会議を行い、前回と違う内容は赤字で示している。介護計画の評価や見直し等については家族にも説明し、意見を聞いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りや記録で情報を共有している。また、担当者会議で利用者の状況を話し合い、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度話し合いを行い、利用者一人ひとりのニーズに柔軟に対応できるよう、努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの受け入れや運営推進会議へ民生委員に出席していただき、交流や地域資源の把握に努めている。また、外出行事で地域のショッピングセンター等に行き、買い物や食事を楽しめるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族が希望する医療機関を受診できるように支援し、適切な医療を受けられるように努めている。	利用者や家族が希望する医療機関を受診できるように支援し、町外受診は家族に協力をお願いしているが、都合の悪い時は職員が支援している。訪問看護師が週1回訪問し、利用者の健康管理を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所との契約により、週1回、健康管理のために来訪していただき、利用者個々が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に情報提供を行い、家族と連携を図りながら状況の把握や相談に乗っており、安心して治療を受けられるよう、早期退院に向けた支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者や家族の意向を尊重し、重度化した場合に向けて入居時に説明をしており、利用者や家族の意向についても話し合い、方針を共有している。	重度化や看取り介護に関する指針を明確にし、入居時に家族に説明している。以前、看取りを経験しているが近年はない状態である。利用者や家族の意向を踏まえ、医療機関や家族と連携を図りながら支援する体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時に備え、AEDを用意している。また、応急手当や初期対応に備えてマニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中だけではなく夜間を想定した消防訓練を実施しているほか、消火器や避難路確保等の設備点検を毎月行っている。また、食料やその他必要な物品も備蓄している。	日中や夜間想定避難訓練を実施し、消防署立ち合いの訓練も行っている。災害発生時に備えて、飲料水や食料品類は隣接デイサービスに、ストーブや発電機、必要物品等は倉庫に保管している。物品はチェックリストで管理している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の気持ちを大切に、利用者一人ひとりに合った声かけやプライバシーを損ねることのないように対応すると共に、自己決定しやすいよう、声かけや対応を工夫している。	利用者に合わせ、プライバシーに配慮して名前や名字で呼びかけている。職員は利用者が自己決定できるような働きかけを工夫している。また、お便り掲載の写真は掲載許可を取っており、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個々の希望を尊重している。また、日常生活の中で利用者が思いや希望を表出したり、自己決定しやすいような働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の力量を見極めながら、利用者の希望に合わせた生活支援をしており、茶碗洗いや茶碗拭き、掃除、洗濯物干し、洗濯物畳み、散歩、日光浴等、希望に沿ったケアを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者個々の好みや季節に合った衣類選びを職員と一緒に、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事への関心を引き出せるように、献立にも利用者の希望を取り入れたり、日頃から準備や片付け等を職員と一緒にしている。	利用者の好み等に配慮し、家庭的な食事を提供している。量は適量であり、1階は介助が必要な利用者があるため職員と一緒に食事を摂っていないが、2階は一緒に食事を摂っている。職員はさりげなく声がけをしながら見守り、支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりに応じた量や栄養バランス、水分量、塩分量、嗜好等に配慮している。代替食も用意して提供している。また、1日の水分摂取量をチェック表にて把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回、食後の口腔ケアを実施している。利用者が自力でできない所は職員が介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて利用者個々の排泄パターンを把握し、トイレの声がけや誘導を行っている。また、ズボンの上げ下げ等、自力でできる所は自力で行っていただき、できない所は職員が介助している。	排泄チェック表でパターンを把握し、自立に向けた誘導を行い、支援している。失禁時には利用者のプライバシーに配慮して速やかに行っている。紙オムツや尿取りパッドの使用については、家族と話し合い、利用者の状況に応じた見直しを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者個々の排泄パターンを把握し、水分量の確保や適度な運動を取り入れる等して対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴の声がけをして、希望に合わせて時間をずらす等、利用者個々の意向で入浴できるように支援している。また、シャンプー等も好みの物を用意し、継続して使用していただいている。	利用者の入浴習慣や好み等にも配慮し、週2回の入浴としている。入浴剤等も使用して、楽しい入浴時間となるように支援している。また、体調が悪い方や入浴したがりない方には柔軟に対応している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を多くするようにしている。午前中に体操やレクリエーション、歩行訓練等を行い、午後は入浴や利用者個々のペースで過ごしていただき、夜間に気持ち良く眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の薬の説明書のファイルを作成しており、いつでも確認できるようにしている。服薬時は名前や日付、朝・昼・夕の確認をしてから服薬していただき、飲み込みの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者の力量を見極めて、それぞれに合った役割をしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や希望があった時の外出を支援できるように努めている。また、食事会や買い物、花見等の希望を取る等し、定期的に外出ができるように支援している。	定期的に外出行事を計画し、花見や道の駅・買い物・外食等に出かけ、気分転換できるように取り組んでいる。外出の際は利用者の状態に合わせた支援を行っている。法人本部の合同の秋祭りには家族にも声がけし、一緒に楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いを預かり、外出の際に使ったり、希望する物を職員と一緒に買っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を出したいという希望があった時のために準備している。電話を掛けたいという希望があった際の支援として、公衆電話を設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって過ごしやすい環境を整えている。季節を感じることができるように花や飾り等を設置して、心地良く過ごせるような工夫をしている。	ホールにソファを備え、寛げるように配置して、温湿度の管理を行い、快適に過ごせる環境となっている。季節を感じられるような装飾や廊下には行事写真を掲示しており、利用者や家族の楽しみとなっている。ホールでは体操をしたり、食事テーブルでは、ちぎり絵をしており、利用者が思い思いに過ごすことができるようになっているほか、中庭も整備しており、散歩を楽しめるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペース以外でも廊下にイスを置く等、自由に過ごせる居場所づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から愛用している物を持って来ていただく等することで、利用者一人ひとりに合った居室づくりを行い、安心して過ごせるように支援している。	居室にテレビや仏壇を持ち込んでいる方や家族写真等を飾り、利用者が安心して過ごせるような居室づくりを行っている。持ち込みが少ない方には利用者の意向や趣味に沿って居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで、手すりを設置しており、安全に移動することができる。また、利用者個々に合わせて目印や表示を付ける等の工夫をしている。		